

研究課題名	膵体尾部癌に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診組織診の与える影響の検討
研究の意義・目的	超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診組織診（EUS-FNAB）は、膵癌の診断において必須の検査である。しかし、膵臓の真ん中から左側の部位に発症した癌の場合は、検査を施行する部位が胃からの穿刺となり、穿刺した経路の播種（癌をばらまくこと）や線維化（傷が治り硬くなること）などの影響が懸念される。現診療では、画像検査の進歩により、膵癌の画像のみでの診断能は向上しており、EUS-FNAB の適応の見直しが必要である。本研究では、外科的手術（膵体尾部切除術）を受けた患者さんを対象に、手術中の所見より EUS-FNAB を施行した穿刺経路の線維化・播種の有無、その後の合併症の有無など EUS-FNAB の影響をカルテの診療情報を調べ検討します。
研究を行う期間	「機関の長の実施の許可日」～ 2025 年 3 月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2015 年 1 月 1 日～2021 年 6 月 30 日までの期間中、大阪市立大学医学部附属病院で、膵体尾部切除術をうけ、病理結果が膵癌であった患者さんが対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等： ① 患者基本情報：年齢、性別、診断名、手術日、糖尿病の既往の有無、EUS-FNAB 施行の有無、EUS-FNAB に使用した針のサイズ（ゲージ）/穿刺回数、Body mass index、膵臓の厚さ ② 血液検査結果：好中球、リンパ球、CRP ③ 手術所見：手術時間、出血量、輸血の有無、膵臓切離方法（機械的、メス）、術式、門脈合併切除の有無、副腎合併切除の有無、膵臓の高度（soft か hard）、膵臓と胃の間の癒着の有無（生理的癒着を除く） ④ 病理所見：腫瘍の大きさ、存在部位、TNM 分類、膵前方浸潤の有無、膵後方浸潤の有無、門脈浸潤の有無、動脈浸潤の有無、神経叢浸潤の有無、他臓器浸潤の有無、切除断端陽性/陰性、切除断端周囲浸潤の有無 ⑤ 術後合併症：合併症の有無、胆汁漏の有無、膵液漏の有無、胃内容物排泄遅延の有無、感染の有無、出血の有無、腸閉塞の有無、縫合不全の有無
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科、肝胆膵外科で行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者：丸山 紘嗣 研究分担者 所属：消化器内科 氏名：東森 啓 所属：肝胆膵外科 氏名：久保 正二 所属：肝胆膵外科 氏名：竹村 茂一 所属：肝胆膵外科 氏名：天野 良亮 所属：肝胆膵外科 氏名：田中 肖吾 所属：肝胆膵外科 氏名：木村 健二郎

本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 (担当者氏名) 丸山 紘嗣 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス： m2036423@med.osaka-cu.ac.jp